

医療・健康行動のデータ分析と健康行動変容のための介入

研究の概要

運動・食生活・病気・受診などの健康行動や健康状態の根本にある原因は経済状態の違いではないかという問題意識を持っています。経済データと健康データを同時に分析することで、まだ認知されていないもの特定の人々に固有となってしまう健康問題がないのか探索し、あるとすればどのような介入でそれを解決できるか考えています。損失に対して過敏に反応したり、手間の掛かることを先延ばしにするような人間の非合理的な行動を、小さな介入でコントロールしようとする行動経済学の考え方を取り入れて研究しています。医療と経済に関するトピックであれば幅広く研究しており、他大学の研究者と共同研究の形で進めているものも多々あります。

近年行ってきたのは以下のような研究です。

- (1) 医療費助成が1型糖尿病患者の治療方法選択にもたらす効果の測定。
- (2) 不況下での受診行動・医療費支出を分析。
- (3) COVID-19 禍での Go To Travel キャンペーンが感染拡大をもたらしたかどうか測定。

研究の特徴

あくまで例ですが、以下のような課題に取り組むことができます。

- ・患者行動・心理の調査
- ・患者の行動変容のためのメッセージ・ポスター戦略の提案
- ・レセプトデータ（診療報酬明細書データ）を用いた受診行動の分析
- ・アフターコロナでの人々の行動変容をデータ分析

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

上述した研究の一つでは、患者団体の方と連携して患者へのアンケート調査を行い、そのデータを基に分析を行いました。また、レセプトデータ（診療報酬明細書データ）を用いた研究も行っています。

研究者からのメッセージ

医療と経済に関するトピックであれば幅広く研究していますので、「～のようなデータがある」「患者行動で～のような問題がある」という問題意識のみからでも、ご連絡頂けると幸いです。

研究分野 : 医療経済学, ミクロ経済学

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学経済学部 経済学科・准教授・田村正興

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp